

あかしびと 108 号（クリスマス号）2023 年 12 月発行  
日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会  
☎236-0046 横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20 tel/fax 045-783-5475  
（牧師）森島牧人・森島恵 （協力牧師）並木裕忠  
（教会） church.kanazawabunko@gmail.com  
（ホームページ） kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp



「Let It Be !」

森島牧人 牧師

皆さまクリスマスおめでとうございます。今年も、皆さまと共に、「平和の君」のご降誕を祝う、このクリスマス礼拝を持つことができますことを、心より感謝申し上げます。

さて、私どもは今年も、多くの事柄を、特に悲しいニュースを観なければならぬという経験をしてまいりました。未曾有の被害をもたらした世界中での自然災害や世界中での地球的大規模の火災、またまさに人災であるロシアとウクライナとの闘いやイスラエルとハマスの戦争等々と、私たちをめぐる＜危機的状況＞を決して私たちは忘れることができません。もちろん各国による人道支援策も実行されていますが、でも今なお被災・被害された方々の困難は続いています。また依然と続く地球環境破壊にも歯止めが目途が全く出来ていません。ですから、その影響で私たちの不安も、日々増加しています。

しかしこのような隘路の中にも、私どものうちに、愛をもって「共に生きる」ところが大きく育ったことをも確信します。主に感謝いたします。優しさ、思いやり、愛の大切さを深く思い、その実現に日本中が、否、世界中が心を傾けていることは確かです。そして今日、ここ教会に集まりました私たち「神の家族」の思いも、同じだと思えます。

さて、クリスマス物語を良くご存じの方もおられると思いますが、その中に登場する人物像は、実は、いろいろな価値観を持った人々、つまり私たち人間を代表しています。ローマ皇帝アウグストやユダヤ王ヘロデは、富と権力の座に着いています。当方の博士たちは、知識、知恵、技術の担い手です。羊飼いたちは、夜勤の労働によって生活を支えています。昔も今も、こういう人たちが互いに対立したり、妥協したりしながら、本当の人生の価値とは何であるかと、問いつつ、求めつつ、しかも、分からなくなりながら生きてい

る。これが私たちの世界ではないでしょうか？

でも、クリスマスの出来事は、これらすべての人々にとって、ショックでした。富でも、権力でも、健康でも、仕事でも、知識でもない価値、すなわち「愛」の誕生でした。その物語は、2000年の昔にあのベツレヘムの馬小屋で生まれた赤ん坊が、どのようにこの「愛」を生き、「愛」に死んだかを、訴え続けてやまないのです。

さて、今日も沢山の素晴らしい音楽を聞きました。クリスマスには多くの素晴らしい音楽がうたわれます。私はクリスマスの時期になると、青年時代に出会った一つの曲を、いつも思い出します。“Let it be”と言う曲です。そう、ビートルズの曲です。それは次のような歌詞でした。

-----  
“When I find myself in times of trouble  
Mother Mary comes to me  
Speaking words of wisdom  
Let it be”  
(苦しみ悩んでいる時には  
マリアが現われて  
貴い言葉をかけてくださる  
Let it be)

“And in my hour of darkness  
She is standing right in front of me  
Speaking words of wisdom  
Let it be”  
(暗闇がぼくを取りかこむ時  
マリアはぼくの目の前にたって  
貴い言葉をかけてくださる  
Let it be)

-----  
この「Let it be」の意味は、販売されている公式CDでは「なすがままに」と訳されていますが、実は、これは聖書のクリスマスの物語でのマリアの言葉です。正確には、以下の様になっています (NKJV)。

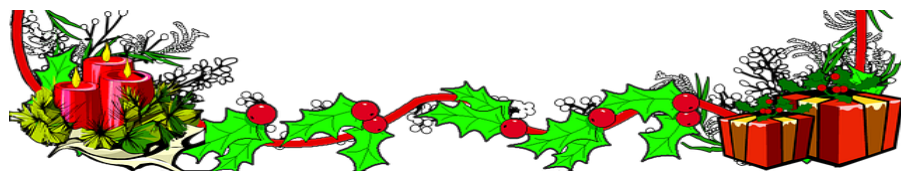
1:38 Then Mary said, “Behold the maidservant of the Lord! Let it be to me according to your word.” And the angel departed from her.

1:38 そこでマリヤが言った、「わたしは主に仕えるものです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

この「マリアの言葉」から、クリスマスの出来事は始まるのです。クリスマスは、この<愛の誕生>を祝う時なのです。そしてまた、これは、私たちの内にも生まれます。私たちの内に灯ったこの<愛のひかり>を、私たちが互いに手を繋ぐことによって、さらに大

きな「希望の光」にいたしましょう。

今日、皆さまの上に神様の御祝福が豊かにありますように、お祈り申し上げます。



## 目 次

「Let It Be !」 森島 牧人 牧師	p.1
「成長させてくださるのは神さまです」並木裕忠（協力牧師）	p.3
2023年8月25日 金沢文庫キリスト教会 夏期修養会	p.5
黙想の手引き	
参加しての感想	
梅谷興三、羽入田 毅、羽入田悦子、高井幾世、白根義輝、白井豊子、犬塚志朗	
創立記念礼拝	p.8
お証し 次男のこと	高井 幾世 p.9
証し 「いつも守り、支えて下さる神様」	佐々木節子 p.9
「イエス様がお生まれにならなかつたら私は存在しない」	白根義輝 p.10
林竹二先生との出会い …恵みの時と場を得て…	白井豊子 p.11
『主に感謝いたします』	西山律子 p.12
「主イエス・キリストとの出会い・陰で働く不思議な力」	犬塚志朗 p.13
召天者記念礼拝	p.16
江原長人兄（梅谷道子姉のお父様）が87歳で召天する三カ月前に病床にて記した辞世のことば	
2023年度金沢文庫キリスト教会の宣教課題と教会後期プログラム	p.17
その他	



2023年10月29日 金沢文庫キリスト教会 教会学校 並木裕忠  
コリントの信徒への手紙 一 第3章4～9節

4 ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。5 アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分にに応じて仕えた者です。6 わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださ

ったのは神です。7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。8 植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることになります。9 わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

「成長させてくださるのは神さまです」

昔、ギリシアのコリントという町にも教会がありました。そこでも、金沢文庫キリスト教会と同じように毎週日曜日に神さまに礼拝を捧げていました。

その教会は、以前、パウロ先生が、神さまのことイエスさまのことを伝えたことで、始まりました。そのパウロ先生は、遠いエルサレムという町の教会からやってきました。歩いたり、船に乗ったりして、長い旅をして、ようやくコリントの町にやって来て、神さまのことイエスさまのことを伝えました。そして、神さまイエスさまのことを信じる人たちが、教会を造ったのです。

ところで、パウロ先生は、コリント以外の所にも出かけて行って、神さまのことイエスさまのことを伝えていました。そのため、いつも、コリントの教会にいるわけではありませんでした。パウロ先生がいない時は、別の先生がコリントの教会に来て、神さまのお話しイエスさまのお話しをしてくれました。

パウロ先生以外の先生として、アポロ先生という先生もコリントの教会に来て、神さまのことイエスさまのことを伝えてくれました。そのアポロ先生も、パウロ先生と同じように、一所懸命に、皆に、神さまイエスさまのことを伝えてくれました。

そうしている内に、コリントの教会の人たちの中に、自分勝手なことを言い出す人が出てきました。ある人が「わたしはパウロ先生につく」と言出したかと思うと、他の人が「わたしはアポロ先生につく」などと言い始めたのです。パウロ先生もアポロ先生も、同じ神さまを、同じイエスさまのこと皆に伝えていて、先生たちが言っていることは、決して違いませんでした。そして、パウロ先生も、アポロ先生も、コリントの教会の中で、自分のグループを作ろうというなどは考えてもいませんでした。教会の人たちに、同じ神さま、同じイエスさまを信じて、信仰を一つにしてやっていくように言っていたのです。それでも、今言いましたように、「わたしはパウロ先生につく」、「わたしはアポロ先生につく」などと言い始める人が出てきてしまったのです。

そのことが、パウロ先生に伝わりました。パウロ先生は急いでコリントの教会に行き、「それは違います」と皆に言いたかったのです。でも、パウロ先生はすぐにコリントの教会に行くことができませんでした。そこで、パウロ先生は、コリントの教会の皆にお手紙を書いたのです。今、読んでもらったコリントの信徒への手紙というのが、そのパウロ先生がコリントの教会の皆に宛てて書いたお手紙です。

パウロ先生は手紙の中で、「わたしはパウロ先生につく」、「わたしはアポロ先生につく」などと言っているのは可笑しいことですよと伝えました。そんなことは教えていないですよとも書きました。

そして、パウロ先生は、草花を育てることを譬えにして、お話ししてくれました。皆さんは草花を育てたことがあるでしょう。まず、草を土に植えます。それから、草がちゃんと育つように、水をやりますね。そうすると、草は育って大きくなっていきます。そして花を咲かすようになります

ね。そのように、草花を育てようとするには、植えたり、水をやる必要がありますね。ただし、一番大切なのは、植える人でも水をやる人でもなくて、草花を育て成長させてくださる神さまですよ。パウロ先生はそのように言いました。そして、草花が育つと同じように、わたしパウロは、コリントの皆さんに信仰の種を蒔(ま)いて、皆の心に信仰という草花を植えました。次に、アポロ先生が、草花に水をまくように、皆の信仰が正しく育つように、皆の信仰の心に水を注いでくれました。ただし、一番大切なのは、わたしパウロでもなく、アポロ先生でもなく、皆さんの信仰を成長させてくださった神さまですよ。だから、「わたしはパウロ先生につく」、「わたしはアポロ先生につく」などと言っているのは可笑しいことですよと伝えたのです。

そして、パウロ先生はこう結びました。わたしたちは皆、パウロもアポロも皆、神さまのために力を合わせて働く者ですよ。そのように言ったのです。

草花を育ててくれるのが神さまであるように、私たちの信仰を育ててくれるのも神さまです。そのことをしっかりと覚えおいてください。

お祈りを捧げます。

今週も、イエスさまが甦られた一週間の初めの日、日曜日に、礼拝をおさげできまして、ありがとうございます。金沢文庫キリスト教会も、多くの方が神さまのために力を合わせて働いて、今、ここにいます。そして、一番大切なことは、お花も、信仰も、神さまが成長させてくださることです。どうぞ、その一番大切なことを、ずっと忘れないようにさせてください。このお祈りをイエスさまのお名前によってお捧げ致します。アーメン。



2023年8月25日 金沢文庫キリスト教会 夏期修養会

### 「黙想の手引き」

信仰者にとって、祈りは大切です。祈りは主なる神との対話です。一方的に、神に訴えることではありません。もし、一方的に、神に訴えてばかりいると、自分の独り言になったり、単なる呟(つぶや)きになってしまう危険性があります。そうならないためには、祈る前に、聖書の言葉をじっくり聴くことが有益です。

本日は、一つのテーマに沿って、聖書の言葉をじっくり聴いて黙想してまいりましょう。黙想では、ゆっくり聖書を読み、聖書の言葉をじっくり聴きます。一度読めば分かったつもりになりますが、2回、3回、4回と何回か読んでいくのです。動物が食べ物を良く消化するために、反芻(はんすう)するように、何度も読んでみるのです。そのうちに、それまで気になかった聖書の言葉の一部が、心にひっかかるようになることもあります。そうなったら、そこが狙い目です。そこで、立ち止まって、聖書は何を言っているのか、思いを巡らしてみましよう。聖書の前後の言葉も参照し、時には自分の体験も織り混ぜながら、思いを巡らして行くと、さらっと読んだ時には気付かなかつ

た発見があります。もしかしたら、なぜこう言っているのかという問いが湧いてくることもあるでしょう。その問いの答えを求めて、さらに思いを巡らすのも有益だと思います。

このように、黙想はそれぞれの方が自由に神の言葉を聴き、神と交わることのできる時間です。今回の修養会では、一つのテーマが与えられていますので、それに沿って、黙想してまいりましょう。



### 夏期修養会に参加して 梅谷興三

「天に宝を積もう」と題するテーマの修養会

1 解説文では救いをうるためには、バプテスマを（信仰告白して）受けることからスタートして、パウロのいうように、朽ちない冠をえるために節制する。

具体的には、（イエスはおっしゃっていないが）「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし神を愛し隣人を愛すること、実践すること」、それは 弱い立場にいる人に寄り添い、教会に献金をするこ  
と等ではないか、で納得が得られました。

2 現実には「貯金や保険、保存食等」は、地震、水害など天災の多発する近代の日本では最低限必須だと思われます。災害時での教会の働きも問われているのではないのでしょうか。



### 2023年夏期修養会感想 羽入田 毅

黙想の手引きに従っての1時間15分の黙想の時間は神との対話の前に自分との対話：目的と自分の信仰の確認が必要でした。御言葉を前にして今この時に世事や日常での思い煩いや雑念から離れることが黙想の第一歩でした。そして神と交ることが出来る黙想＝神との対話は7つの御言葉を反復熟読し、自問自答し、神に問い、答えを探す時間でした。この黙想の時間で思い知ったことは、物事に対峙する時の真剣、必死の姿勢や思いの何と稀薄であったことか。自戒の一日でした。



### 「天に富を積む」ということ 羽入田悦子

天に富を積むことの一つは、「良きサマリヤ人」のように、そんなことを全く意識しない行動の中にあると思われる。苦しんでいる人のことを見聞きして手を差し伸べる、援助する、その時富は本人の知らぬ間に天に積まれているということだろう。

その一方で恵みの中を生かさせていただくキリスト者の一人としては、パウロのように「自分の体を打ちたたいて服従させる」という富の積み方があることを心に留めて、残りの人生を歩んで行きたいと願う。



夏期修養会に参加して 高井 幾世

地上の富はさび付き盗人が盗み出してしまうような朽ちるものであり、朽ちない富を天に積みなさいと今回の修養会で学びましたが、これまでの自分を振り返るととてもそうできなかったことを思います。聖書の御言葉をいつのまにか忘れ、やがては朽ちるこの世の富や見栄にいかにかが支配されてきたことか。表面上のことに気をとられ、一番大切な内面の心を大切にできていない私の愚かさゆえに、子育てにおいて大きな過ちを犯したと深く反省させられています。修養会では改めてそのことを思い、分かち合いの時間に、自分の犯した過ちとその過ちに気付かせてくださった神様の憐みについてお話させていただきました。これまでの神様のお守りに感謝して、これからも今回の学びをここに留めていきたいと思いました。



修養会に参加して 白根義輝

「黙想の手引き」が配付され開会礼拝の聖句を含め6箇所聖句が紹介されていました。私は善いサマリア人に着目しました。教会学校、勤めていたクリスチャンスクールの礼拝でお話ししたり、礼拝で牧師の説教でお聞きしたり何度も自分でも読んだ箇所です。「黙想の手引き」にもあるように「さらっと読んだ時には気付かなかった発見があります。」とある通りです。29節「彼は自分を正当化しようとして・・・」という言葉です。自分で話す時は37節「行って、あなたも同じようにしなさい。」を結論にしていました。振り返ると献金をする時、色々理由をつけて献金をけちるケチ臭い信仰だったことと聖書を読む姿勢に反省させられました。



夏期修養会・分かち合いからの学び 白井豊子

天に宝を積むことの一つは隣人を愛することだ。話し合いの中で次のような感動的な話を聞いた。子育ての時、子どもの想いをくみとりながら育てず、自分の良いと思った事を押しつけてきたと気づいた。そのため、わだかまりがあるのだと気づいて、成長した子どもに自ら謝罪。和解ができたのだそうだ。

私は子育てに関しては、片親で育て、しかも母任せだった。口だけで自分の想いを子どもに押しつけてきた。一層申し訳ないあり方だ。口に出して子供に謝るのは、中々難しい。課題である。



夏期修養会に参加して学んだこと 犬塚志朗

教会内で冷風を浴びながら、黙想の時間が一時間以上与えられました。配付された「黙想の手引き」をじっくり読み「天に宝を積む」とはどういうことか。それに関連する聖書箇所を繰り返し読みながら考えました。「黙想の手引き」に従って自宅でも与えられた聖句を参照し繰り返しじっくり考えることができ、今後の生き方の修正の指針にしたいと考えております。



### 創立記念礼拝

10月15日

大矢和男先生を中心に、創立48周年記念礼拝に参加された方々と、記念の写真を撮りました。



### 教会学校







お証し 次男のこと

高井 幾世

今回の夏期修養会のテーマであった、「天に富を積みなさい」との御言葉に反し、私はこの世に富を積むことにいかにとらわれていたかを思います。主イエスの言葉に耳を傾けつつも、心の底ではこの世の富や人の評判を求めていました。そのような私の愚かな思いは子育てにおいて大きな過ちをおかすことになってしまいました。私は将来安定した職業や収入を得るためには学歴が大切だと考え、子供にはとにかく教育を受けさせることが第一と思っていました。そして40歳からフルタイムで働き始めたこともあり、私は日々の仕事に追われ、当時中学3年だった次男の気持ちにしっかりと寄り添うことができていませんでした。次男は悩みや相談事があっても母親にゆっくり話も聞いてもらえず苦しんでいたのに、この世のことにとらわれあくせくする私は彼のこころの痛みに気付いてあげられませんでした。次男は大学卒業後社会人になってからはほとんど家に帰ってきてくれず、たまに会っても暗い表情のことが多く、私は彼のことがずっと気掛かりでした。「主よ、どうか助けてください」と祈る私に神様はいろんな方の話や本を通し語ってくださり、私自身の過ちに気付かせてくださいました。この世的な考えに支配され、それを押し付け、次男の気持ちを置き去りにしてきた私の大きな過ちに。

今年の夏そのことを彼に謝ることができました。彼は、親に自分の気持ちを尊重されず抑圧され苦しかった胸の内を語ってくれました。これまでそれを口に出さずずっと我慢してきたこと、それがどれだけ苦しかったかを。彼の怒りや恨みの深さを聞きながら、私は己の愚かさをただ詫びることしかできませんでした。最後に息子は穏やかな表情で気持ちが少し楽になったと言ってくれ、涙しかありませんでした。その後彼は久しぶりに家に帰ってきてくれ、父親と兄に対してもこれまで心にしまっていた気持ちをぶつけ話してくれました。私は長男にも辛い思いをさせてきたことを謝りました。その日一日では次男の心の傷を癒すにはとても短いものでしたが、親子4人、こころを開いて話をする機会が与えられて感謝します。次男はその翌日東北への旅に出て、訪れたお寺で目の悪い私のために「目のお守り」を、父と兄にもそれぞれお守り買って送ってくれ、彼が優しい気持ちになってくれたことを心から感謝しました。

世俗的なことにとらわれ、子育てにおいて大切なものを見失っていた私ですが、その過ちを神様に気づかせていただき感謝します。愚かな私をお守りくださる主に感謝します。悔い改めつつ少しでも天に富が積めるような者になれますようにお祈りします。



証し「いつも守り支えてくださる神様」

佐々木節子

私の日常の支えとなっているのは、

イザヤ書 41 章：9 節-10 節

わたしはあなたを選び、決して見捨てない。わたしはあなたと共にいる神。

コヘレトの言葉 3 章：1 節-8 節、17 節

すべての出来事、すべての行為には、定められた時がある。  
です。また、海外で生活するにあたって、支えられていたのは、憲法前文と9条です。前文の気高い文章、そして戦争放棄をうたった9条は、どこの国においても誇りでした。

今日の証しは、コヘレトの言葉3章：2節「生まれる時 死ぬ時」について、ヨルダンでの経験を交えてお伝えさせていただきたいと思います。

私は、ヨルダンで生活したくて2000年にJICAのシニアボランティアに応募しましたが、見事に不合格。でも、神様は他の道を用意してくださっていると思い、あまり落胆はしませんでした。その後、JICAから「スリランカのボランティアが体調を崩して帰国したので、1年間行きませんか」と声がかかり、神様はここを準備してくださったのだと思い、赴任しました。学生たちは全員社会人で、それなりの立場にいる方ばかりだったので、彼らからスリランカの現状・歴史を学ぶことができました。また、大学での指導経験がなかったので、仕事の仕方もここで学びました。私にはここでの学びが必要だったのだと思い、神様に心から感謝をしました。

そして、帰国してから再度ヨルダンに応募すると、幸い合格しました。合格すると、国内で2か月間、語学研修や日本のODA事業の現状など、いろいろな講座があります。安全・健康管理の講座の時に、JICA始まって以来の重大事故の映像を見せられました。それは、私たちより1年前に赴任されたヨルダンのシニアボランティア4人が、任地での研修を終え、住まいも見つかり、いよいよこれから仕事開始という時に遭われた事故でした。大型トラックと正面衝突をし、乗用車はトラックの下にのめり込み、原型を留めていませんでした。4人の方々は即死でした。それを聞いた時背筋が寒くなり、膝ががくがく震えました。同期は日本での研修中に親しくなり、赴任後行動を共にすることが多く、私が1回目に合格していたら、彼らと一緒に車に乗っていました。こうして文庫教会の方々に、お会いすることはできませんでした。

全ての事は神様の領域で、スリランカ派遣よりも、もっと大きな神様の働きがおありになったことを、思い知らされました。「まだ、死ぬ時ではない」と言われ、生かされています。

マルコによる福音書16章：1節-8節 女性たちが主イエスの墓に行き、主がおられなくて、恐れおののいていると「主イエスは復活されてガリラヤに行かれた。そこでお目にかかれる。私について来なさい」と言われました。私はいろいろな場所・場面で主の御手に守られたことを感じさせられています。私も主を追いかけて、ついて行かなければと、思っております。 感謝です。



「イエス様がお生まれにならなかつたら私は存在しない」

白根義輝

10月29日のエルピスの賛美奉仕が終わりやっとあかしびとの原稿に取り組む余裕ができました。

イエス様が誕生されなかつたらキリスト教も生まれなかつた。すると私もこの世に存在しなかつたのです。母は日本基督教団の牧師の娘で、父とお見合い結婚して姉・兄そして私が誕生しました。

父は田浦教会の牧師を務めた後、関東学院六浦中高の聖書の教師として奉職しました。3人の子供たちは関東学院六浦小学校に入学し、その後兄は大学院、私は大学までお世話になりました。中学3年の時、犬塚先生が奉職され1年間英語を教えてくださいました。

私は26歳で父から洗礼を受け、教会学校の教師になり、小学校教師の資格を取って基督教の小学校に奉職し家族を養うことができました。

振り返ってみると、生まれる前からクリスチャンに囲まれていた環境には非常に感謝しています。信仰が与えられ教会生活を送れるのも大きな恵みです。

老人になった現在、日々衰えていく自分と向き合いながら、神様に信頼する信仰を守ってくださいと祈る毎日を送っています。



### 林竹二先生との出会い …恵みの時と場を得て…

白井豊子

思いがけなくも、鈴木シスターのズームで出会った方から、私が触れた林竹二先生の事を聞かせてほしいと連絡があった。それがきっかけで20代初期に出会った林竹二先生の姿が思い起こされてきた。

私が初めて林竹二先生に出会ったのは、ちょうど20歳の時である。当時私は仙台の私立女子大、日本文学科の三年生だった。やむなく落ち着くこととなった、その大学で、やれるだけの事はしっかりやろうと、心が定まってからは積極的に自分の今後の道探しを始めていた。

教育とは何かを根本から探してみたい、教育哲学的な学びをしたいと思った。そこで近くの宮城教育大学の事務局に相談にいった。放課後、同好会の形でルソーの「エミール研究会」があるので、そこに連絡をとるのがよいと教えられた。その研究会は突然他大学から一人参加した私をフレンドリーに迎えてくれ、一緒に読み合わせをしながら学ぶことになった。

ほどなくして、林竹二学長が研究会に自ら足を運んで「一緒に学びましょう」と言ってくださった。その後林先生は、私たち学生を見守りながら助言指導してくださったのだ。謙虚な林先生の人柄と学識の深さに尊敬の念をいだかされた。

私は今、その頃の事を振り返ると、神は最善のことをなしてくださるといふのは本当なのだと思う。

自分が希望する大学から三月末に補欠合格の形で入学許可が出たが、経済上行けなくて、やむなく入った私立の女子大だった。しかし、そこが私のにとっては一生の指針となる基督教との出会いを与えてくれた。こうして近くの宮城教育大学で、熱心なクリスチャンである林竹二先生との出会いにもつながったのだ。神のなされることは不思議である。

大学を卒業後、私立高校の国語科教師として勤めたものの、程なくしてやめて、福島の子どもの知的障害児施設の指導員として、住み込みで働かせていただいた。そこで出会った子供たちから教師の姿勢を教えてもらった。もっと専門的に学びたいと思って、あの林竹二学長のいる宮城教育大学に編入することにした。

養護学校教員養成課の三年次に編入し、今度は正式な学生として学ぶことになった。

林先生のゼミで「ソクラテスの弁明」を受けたり、林先生自らが小学生を対象に授業するのを見せてもらったりもした。林先生の考え方の背景にキリスト教があることは、すぐ分かった。ある時、大学食堂に向かう道すがら、先生に聞いてみた。

「聖書を読んで、わかるようになるには、どうしたらよいのでしょうか」と。先生はすぐに答えてくれた。

「行間を読みとることですね」

と。まるでイエスと二人で歩いた弟子のように、教えをいただいたのだ。

この「間をよみとる」ということが、さまざまな場面でいかに大切かを後に考えさせられた。「間をとる」ことも大切で、腹話術においても、書道においても、会話においても同様だった。

林先生の小学生への授業は、本質をついた質問で、じっくり子供に考えさせる授業だった。「間」をとり、子供の「間」における表情の変化をよみとりながら授業を進めておられた。

林先生が学長を退いた昭和 50 年が私の卒業の年でもあった。林学長は退く一年前に、授業の神様と呼ばれた、斉藤喜博先生を教授として一年間呼ばれたのだ。名人芸のように子供を変えていく斉藤先生の授業を見せて頂き学ぶことができた年でもあった。真の教育とは何かを実践で教えてくれた林学長と斉藤先生。偉大な先生方に出会って指導を受けた、恵みの時、場であった。

林学長は本物を求める哲学者であり、謙虚で愛のある人柄の教育者でもあった。感謝。

こうして林竹二先生からの恵みを頂いた私が、教師としてどれだけ子供に寄り添い、一人一人の子供の持つ力を輝かせられたか問われる。権威的ではなく、子供に寄り添うように努めてきたとは言える。学校を変え、教育の在り方を変えようと奮闘された林先生の姿が今も見えるようである。



『主に感謝いたします』 西山律子

6 年前に脳出血で倒れて介護が必要な夫を残して、私は脳梗塞で入院となりました。昨年 10 月です。あれから、あっという間に 1 年が経ちました。

自分が夫の介護をしなくてはと、慣れない介護や家事に仕事と息子たちはさぞ大変なことだと思ひ、必死にリハビリをしました。

自分の力でリハビリをしたので何とか動かなかった右手と右足が動くようになったと思ひ違いをしていました。

主にお委ねしないで息子たちがダウンするから早く私が夫の介護をしなくては、夜のトイレだけでも引き受けなければと無理に退院させてもらいました。しかし、介護 3 の私は何の役にも立たずかつ荷物になりました。

今年の 5 月には井戸より深いところへくるくると下へ下へと落ちて行くのです。真っ暗闇で何も

見えない。頭と息が苦しいだけです。

ここは地獄かな、お墓かな天国はまばゆいばかり光り輝くところだからここはどこかしらと。

「西山さん、西山さん」とドクターの声がして目が覚めました。救急車で運ばれて検査が終わり、熱中症ということで入院せずに帰宅しました。2ヶ月ほどリハビリができずに寝たきりです。

今年の7月にはコロナで2ヶ月の間、夫も私も寝たきり状態となりました。

元気な時は寝不足でも2日ぐらいは平気でしたが、病気がちになると1日の寝不足でダウン、2週間も寝たきりの夫の介護は一日中夜なのか朝なのか昼なのかもうろうとして、ヨロヨロ、ボロボロ、すぐ横になりました。

牧人先生と恵先生のお祈り導きにより平安をいただき、また主が共にいて幼な児のように毎日眠りました。

今回たくさんの恵みをたくさんいただきました。一番の恵みは、全く介護や家事に無関心だった次男が私の入院から退院してからも1日3食作り、夫や私の介護をするようになったことです。また今までもよく夫の介護を手助けしてくれた三男と長男も三人力を合わせてくれたことです。

主が強いみ手で支えてくださり、み使いを送ってくださり、近所の方たち友人、妹の助けを借りながら、そして教会の皆さまの大いなる励まし、お祈りにより回復いたしました。

主はいつもともにいて全てのことを善きにしてくださいました。主に感謝いたします。



「主イエス・キリストとの出会い・陰で働く不思議な力」

犬塚志朗

私の幼いころの家族は豊かで、平和な6人家族。自宅には、大きな仏間に豪華な仏壇、その前の部屋には神棚があり、神道の神様が祭ってありました。葬式は仏教で、お祝い事は神道で自宅で行われました。当時、毎年新年の元旦にはお寺参り、そのあと神社によって甘酒をいただき、そして私たちは元旦に登校し、新年のお祝いをしました。世界が新しく生まれ変わった新鮮な気持ちに満たされました。

数年は平和な月日が流れました。やがて父親は胃癌で闘病生活に入り、私が中学一年の時逝去、母親は父の看病、4人の子育ての気苦労が重なり私の中学三年時に逝去。しばらくは長男が父親代わりをし、親戚の人がかわるがわりに我が家を訪れて、私たち子どもの世話をしました。

その後、私は県立岡崎高校に入学、そして卒業してすぐに学芸大学に入学しました。その大学での英会話の授業の担当、福音ルーテル教会の牧師・デビソン師に出会いました。そこで驚きました。この世の中で西洋のキリスト教の神様を信じている人がいるんだと（その当時そう思っていました）。また、私の通う大学入試の英語のリスニング試験や普段の英会話の授業にその教会の牧師が関わっていたことも異様でした（国立の大学なのに、と）。そう言えば私の小学校の4,5,6年の三年間の愛する担任は神道の祢宜さんです。葬式仏教、お祝事の神道から新しく主イエスキリストの出会いには大きな経験でした。更に、はるばる300km離れた東京からキャンパスクルセードの牧師が定期的に、我が大学校内で伝道集会を開きました。その伝道集会では始めの内はユーモア溢れるお話で笑い声と、にこにこ笑顔に満たされていました。しかしやがて、あちらから、こちらからシクシク女性の泣き声が聞こえました。感動したのです。また我が大学の音楽専攻の学生の指導のもとにア・カペラ合唱団ができました。私はその一員になりました。そして福音ルーテル教会でバプテスマを受けました。当時の私の人生は絶好調、順風満帆、楽しさと喜びに満ち溢れ、不思議な体験が連続しました。・・・・・・・・

私は大学生時代、地元の出身中学校(村立)の教員（元私のクラス担任）が、我が家に自転車で訪れ、大学に通いながら私の出身中学校非常勤講師として一年間二クラスの英語の授業を担当するように、と。また翌年、県立岡崎工業高校の教員（全く存じ上げない教員）が我が家に訪れ、その機械科の英語授業を非常勤講師として担当するよう依頼されました。当時電話がなかったので、自転車で、汗をかきかき、遠路はるばる、ど田舎の我が家にわざわざ訪れたのです。大学に通いながら、新たにそこで一年間勤務しました。

大学卒業と同時に、両親二人とも天国入りで、私は、寂しくなるから出て行かないでくれっ！との兄（長男）の願いに反して、愛知県の片田舎から私は知人誰一人いない東京・横浜に出てきました。そして東京のキリスト教教育同盟からの紹介で私立関東学院六浦中学高等学校の教員として勤務することになったのです。42年間勤めました。

そこを定年退職し、ああ、これでゆっくり休養できる〜っ、と思っていたら、その三月末に突然アレセア湘南高等学校で非常勤講師としての勤務依頼の電話が、関東学院大学の教授（私にとっては存じ上げない先生、現アレセア理事長）から私に入りました。新学期が始まった4月1日に面接。そこで、初心に帰って新しい気持ちで二年間勤務することになったのです。充実した人生でした。

非常勤講師時代は4年間、中学や高校、アレセアの三校とも私からの願いでなく、中間に幾人かの人を経由して、紹介から紹介へと繋がって、私がそれぞれの学校に勤務することに決まったのです。

・・・・・・・・・・・・・・・・

私の過去の履歴に、何か大きな陰の力が働いていたような気がします。その陰の力とはなんでしょう。不思議なできごとでした。

80歳を迎え、あれもできなくなった、これもできなくなった、マイナス面ばかり数え、日頃の生活で不安に煽られることが多くありました。過去の元気いっぱい的人生とは裏腹に今は立派な癌サバイバー、定期的に検診・手術を繰り返しています。また心のゆるんだだらしない生活から歯が抜けて上下あわせて五本しか残っていません。天国行きを待つボケ老人です。そんな私でも、与えられた人生を力いっぱい過ごすことができるよう願っています。そこで与えられた聖句は、

「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ  
を」 ロマ書 5：4-5。「艱難汝を玉にす」：故事

何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者  
と思いなさい。ピリピ人への手紙 2：3～4

自分が一番愚かな者と思いながら謙虚に生活をしなさい。(水曜日集会からの学びから)  
「数えてみよ、主の恵み」 じっくり味わえるように心の成長を願っています。

.....

神のために成果を挙げようと神に強さを求めたが  
神に従うことを学ぶようと弱くされた。

少しでも大きなことができるようにと健康を求めたが  
善いことができるようにと病気を与えられた。

幸せになるために富を求めたが  
賢くなるようにと貧困を授かった。

人々の賞賛を得ようと力を求めたが  
神を求めるようにと弱さを与えられた。

人生を楽しむために何でも求めたが  
何でも楽しめるような人生を授かった。

求めたものは何も与えられなかったが  
願ったことは全てかなった。

私の思いとは違っていたかもしれないが  
言葉にならない私の祈りは聞き入れられた。

私は何よりも祝福されたのだ。

(ある無名兵士の詩より) ネット配信検索



## 召天者記念礼拝



江原長人兄（梅谷道子姉のお父様）が87歳で召天する三カ月前に病床にて記した辞世のことば

生前、御一人御一人様から、それぞれの処にあって、温かい御交わりとご指導をいただき、まことにありがとうございました。

私は、幼少時、河樋と大水車にはさまれた事故のことや、青年時、雷鳴と俄雨の激しい暗夜をさまよった浅間山山頂恐怖の体験をなめ、又最近は、死後の献体のことを考え、有美会社へ投稿することも幾度かありました。これらの事柄の背後には、いつも生死の問題が不治症的に脳裏を去来して、その思いは今に至るまで去りませんでした。又晩年、家にあっては、先人の生活ぶりや、思想を書き留めることの楽しさを見出し、傍ら庭に下り、草取りに無心の解放感を味わい得たことも幸いでした。而して考えて見れば、我が人生の土台に、義にして愛なる神への信仰が与えられていたことは、無限の感謝であります。いささかの教会へのご奉仕も、まことに私にとって光栄なことであります。

『神は愛なり』と聖書に録された言葉に一切を委ねて、復活の主イエスと顔を合わせるために先に参ります。皆様の上に神のご祝福を祈ります。



< 2023年度金沢文庫キリスト教会の宣教課題 >

◎宣教する教会（派遣される教会）

- ①み言葉に聴こう（感謝）：主日礼拝を大切にする
- ②主を賛美しよう（喜び）：賛美奉仕者の確保/賛美リーダーの研修
- ③共に祈ろう（交わり）：個があって連帯する
- ④主と共に歩もう（奉仕）：地域との協働
- ⑤次世代に繋げよう（共育）：教会学校の充実、Church Café 講座の強化



◎2023年度後期金沢文庫キリスト教会後期プログラム

[10月]

10月15日（日） 教会創立記念礼拝（2023年度特別伝道礼拝①）

[11月]

11月5日（日） 召天者記念礼拝  
11月12日（日） 2023年度後期教会懇談会  
11月19日（日） こども祝福式  
11月26日（日）-12月2日（土） クリスマスの準備

[12月]

12月3日（日）-12月24日（金） アドベント（待降節）  
12月19日（日） CSクリスマス礼拝  
12月24日（日） クリスマス礼拝・祝会  
クリスマス燭火礼拝  
12月25日（土） クリスマス（降誕日）

[2024年]

[1月]

1月7日（日） 新年礼拝・1月責任役員会

[2月]

2月4日（日） バプテスト・デー礼拝  
2月11日（日） 信教の自由を守る日（2023年度特別伝道礼拝②）  
2月18日（日）-3月30日（土） レント（四旬節・受難節）  
2月25日（日） 2023年度定期総会（予算）

[3月]

3月24日(日)	棕櫚の主日
3月24日(日)-3月30日(土)	受難週
3月29日(金)	受難日礼拝
3月31日(日)	イースター礼拝(復活日礼拝)



主日礼拝 日曜日 10:30~12:00 (教会学校 9:00~10:00)

キリスト教入門講座 水曜日 10:30~12:00 テキスト:「キリスト信徒のなぐさめ」内村鑑三著

賛美歌を歌おう会 木曜日 10:30~12:00 健康体操、発声練習、賛美歌練習、祈祷会  
毎月第二木曜日は講師を招いて実施

隔月最終木曜日が講師として元東京音楽大学教師指導によるシニアのための健康コース

### You Tube で礼拝を受信する方法

\*金沢文庫キリスト教会は、礼拝を YouTube Live で配信しております

以下の教会ホームページから見る事が出来ます

<http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp/WORSHIP.html>

**編集後記**（広報委員会：記 犬塚志朗）

2023年度主題聖句 「安らかに信頼していることにこそ 力がある」 イザヤ書 30：15  
を掲げて出発しました。が、世界に飛び交う悲しいニュース、生命の危機に脅かされる人々、難民生活を余儀なくされている人々、そしてコロナ禍復活、インフルエンザ流行の兆しが見え隠れしていること、等々心が沈みそうです。このような時にこそ神様を信頼して、希望を抱いて歩んでいきたいものです。これまで多くの方々のお祈り、ご支援をいただき感謝申し上げます。クリスマスと新年を迎えるにあたり、皆様に神様の御加護、豊かな祝福がありますようお祈りいたします。在



**神様の御祝福が豊かにありますように!!**